corega

CG-SCWL201
取扱説明書

Contents

お使いになる前に
お読みください 1

本商品の設定をする 2

本商品を使いこなす 3

トラブル解決と
Q&A Q&A

Y613-24846-00 Rev.A

安全にお使いいただくためにお読みください

ここには、使用者および他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、ご購入いただいた商品を安全に正しくお使いいただくための注意事項が記載されています。使用されている警告表示および絵記号の意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ本文をお読みください。

警告表示の説明

⚠警告 **この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

⚠注意 **この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

絵記号の説明

この記号は禁止行為を示すための記号です。記号の中または近くに具体的な禁止事項が示されています。

例）

「分解禁止」

この記号は必ず行っていただきたい指示内容を示すための記号です。記号の中または近くに具体的な指示内容が示されています。

例）

「電源プラグをコンセントから抜く」

⚠警告

家庭用電源（AC100V）以外の電源は使用しないでください。
感電、発煙、火災、故障の原因となります。

付属の電源ケーブルまたは AC アダプタ以外は使用しないでください。また、付属の電源ケーブルまたはACアダプタをほかの機器に使用しないでください。
感電、発煙、火災、故障の原因となります。

⚠警告

電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、引っ張ったりしないでください。
電源ケーブルに重いものを載せたり、加熱や無理な曲げ、ねじり、引っ張ったりすると電源ケーブルを破損し、感電、火災の原因となります。
また、電源ケーブルが傷んだ（芯線の露出・断線など）状態のまま使用すると、感電、火災の原因となります。
電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜くときは、電源ケーブルを引っ張って抜かないでください。

電源ケーブルまたは AC アダプタのたこ足配線はしないでください。
発熱して火災の原因となります。

アース線またはアース端子を接続してください。
本商品または電源ケーブルにアース線またはアース端子が付いている場合は、アース線またはアース端子を接続してください。
感電、けが、火災、故障の原因となります。

本商品（AC アダプタを含む）を分解したり、改造したりしないでください。
感電、けが、火災、故障の原因となります。

煙が出たり、変な臭いがしたら使用を中止し、電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。
そのまま使用を続けると、感電、火災の原因となります。

本商品（AC アダプタを含む）から異常音がしたり、ケースが熱くなっている状態のまま使用すると、感電、火災の原因となることがあります。すぐに電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。

本商品（AC アダプタを含む）の通風孔などから液体や異物が内部に入ったら使用を中止し、電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。
そのまま使用を続けると、感電、火災の原因となります。

濡れた手で本商品（AC アダプタを含む）を扱わないでください。
感電の原因となります。

⚠警告

雷のときは本商品（AC アダプタを含む）や接続されているケーブル類に触らないでください。
感電の原因となります。

小さなお子様の手の届く場所に設置したり、使用したりしないでください。
感電やけがを引き起こす原因となる場合があります。

梱包用のビニール袋などは、小さなお子様の手の届く場所に置かないでください。
窒息する原因となります。

不安定な場所に設置したり、落としたりしないでください。万一、落としたり、破損した場合は、すぐに電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜き、本商品の使用を終了してください。
そのまま使用を続けると、感電、火災の原因となります。

本商品は、一般事務および家庭での使用を目的とした商品です。
本商品は、住宅設備・医療機器・原子力設備・航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および極めて高い信頼性を要求される設備や機器としての使用、またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本商品を使用しないでください。本商品の故障により、社会的な損害や二次的な被害が発生するおそれがあります。

⚠注意

本商品（AC アダプタを含む）を次のような状態で使用しないでください。
・多段積み
・通風孔をふさぐ
（例：ジュータン、布団、テーブルクロス、毛布などでふさぐ）
・前後左右、上部に十分なスペースがない
（例：収納棚や本棚などの場所に押し込む）
内部温度が上昇し、火災、故障の原因となります。
また、本商品に使用しているアルミ電解コンデンサは、高い温度状態で使用し続けると早期に寿命が尽きることがあります。寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭、発煙、火災の原因となります。

⚠注意

本商品（AC アダプタを含む）を次のような場所で使用したり、保管したりしないでください。

・直射日光のあたる場所
・暖房器具やボイラーの近く、火気のそばなど温度が上がる、高温になる場所（例：発熱する装置のそばなど）
・急激な温度変化のある場所（クーラーや暖房機のそばなど、結露するような場所）
・製氷倉庫など、特に温度が下がる場所
・小さな金属類がある周辺
・風呂場やシャワー室、加湿器のそばなど水のかかる場所や湿気が多い場所
・水などの液体がかかる場所
・調理台のそばなど油飛びや湯気の当たるような場所
・高温、多湿、風通しの悪い場所
・振動が多い場所
・ほこりや粉塵の多い場所
・強風のあたる場所
・ジュータンなどを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・塩水がかかる場所、亜硫酸ガス、アンモニアなどの腐食性ガスの発生する場所
・強い磁気や電磁波が発生する装置が近くにある場所

感電、火災、故障の原因となります。
（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）

お手入れ可能な場所に設置してください。

本商品（AC アダプタを含む）にほこりなどが付着していると、発煙、火災の原因となります。ほこりなどが付着している場合は、電源を切り、電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふき取ってください。

本商品を移動するときは、電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。

感電、火災の原因となります。

取扱説明書に従って、正しく設置してください。

不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。

⚠注意

長期間使用しないときは、電源ケーブルまたは AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。
火災の原因となります。

本商品（AC アダプタを含む）に強い衝撃を与えないでください。
故障の原因となります。

静電気が発生しやすい場所に設置しないでください。
感電、故障の原因となります。

無線製品をご利用の際のご注意

■電波に関するご注意

本商品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また、設置の前に必ず P.2「安全にお使いいただくためにお読みください」をお読みください。

・心臓ペースメーカの近くで本商品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

・医療機器の近くで本商品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

・電子レンジの近くで本商品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本商品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯 (2.4GHz 帯) では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1　この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2　万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、コレガサポートセンタにご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

3　その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、コレガサポートセンタへお問い合わせください。

本商品の次の記載は、この無線機器が 2.4GHz 帯を使用し、変調方式として DS-SS と OFDM 変調方式を採用、想定される干渉距離は 40m であることを表します。また、周波数変更の可否として、全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域の回避が可能です。

2.4　：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表します。

DS/OF：DS-SS 方式および OFDM 方式を表します。

4　：想定される干渉距離が 40m 以下を表します。

■■■：全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域の回避が可能なことを表します。

■セキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲内であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

・ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

・メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

・コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

はじめに

このたびは、「CG-SCWL201」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本書は、本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

http://corega.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

■記号について

注意	**操作中に気をつけていただきたい内容です。 必ずお読みください。**	メモ	**補足事項や参考となる情報を説明しています。**

■イラスト / 画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

■各設定項目の内容について

本商品の設定変更後は必ず再起動を行ってください。再起動しないと設定変更の内容は反映されません。

付属品一覧

本商品をお使いになる前に、次のものが付属されていることをご確認ください。万が一、欠品・不良品などがございましたら、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

- □ CG-SCWL201 本体
- □ AC アダプタ
- □ 無線 LAN アンテナ
- □ ゴム足
- □ 安全にお使いいただくためにお読みください（製品保証書を含む）

目次

安全にお使いいただくためにお読みください 2
無線製品をご利用の際のご注意 7
はじめに 10
本書の読み方 10
付属品一覧 10
目次 11

第 1 章
お使いになる前にお読みください 13

1.1 本商品の特長 14
1.2 各部の名称と機能 15

第 2 章
本商品の設定をする 17

2.1 設定の準備をする 18
2.2 本商品を設定する 19
2.2.1 有線 LAN 経由で設定する 20
2.2.2 CG Device Link for Serial をインストールする 25

第 3 章
本商品を使いこなす 27

3.1 CG Device Link for Serial を使用する 28
3.2 接続先を指定して通信する (eCable Mode) 31
3.3 TCP Raw Port を使用して通信する（Raw TCP Connection Mode) .33
3.4 複数の本商品にデータを同時送信する (UDP Multicast Mode) .35
3.5 Web ページで詳細設定をする 38

第 4 章
トラブル解決と Q&A 46

4.1 トラブル対処の方法 47
4.2 本商品のトラブル 48
4.2.1 電源が入らない 48
4.2.2 設定画面が表示されない 48

付録 64

仕様一覧 65
保証と修理について 66

おことわり 67

第 1 章
お使いになる前にお読みください

この章では、本商品の基本情報を説明しています。

1.1　本商品の特長 14
1.2　各部の名称と機能 15

1.1　本商品の特長

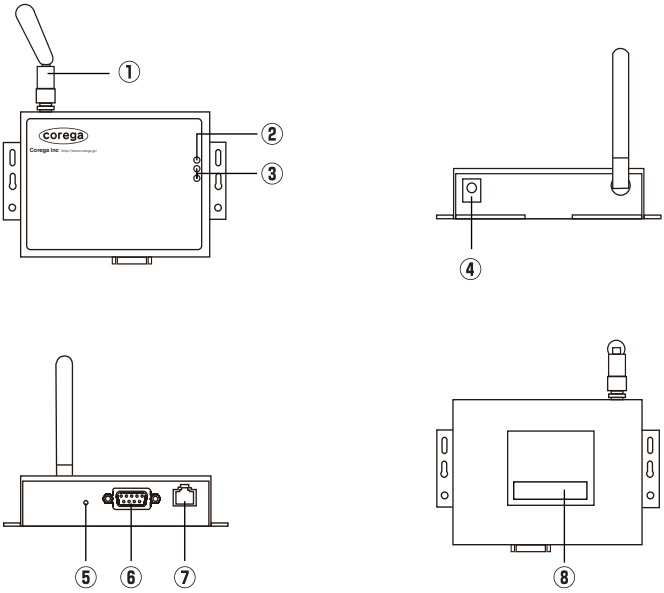
本商品は、IEEE 802.11/g/b に対応した有線・無線 LAN シリアルデバイスサーバです。

ラベルプリンタ、計測器、産業用ディスプレイ、医療機器など RS-232C 機器を離れた場所に設置して利用することができます。さらに高度なセキュリティ機能である IEEE 802.1x 認証に対応します。

※ 本商品の無線 / 有線 LAN は排他利用となります。どちらも有効な環境では有線 LAN が優先となります。（設定で固定にすることも可能です）

1.2　各部の名称と機能

各部の名称と機能を説明します。



①無線 LAN アンテナ

無線 LAN 通信を行うためのアンテナです。

②電源ステータス LED（橙）

LED 表示	Status LED の状態（点滅）
点灯	電源が ON になっています。
消灯	電源が OFF になっています。
点滅	本商品の動作に問題が生じています。

③ネットワークステータス LED（黄 / 緑）

LED 表示		状態
黄	緑	
点灯 / 点滅	消灯	10BASE-T でリンクしています。
消灯	点灯 / 点滅	1000BASE-T でリンクしています。
同時に点灯 / 点滅		無線 LAN でリンクしています

④ DC ジャック

付属の専用 AC アダプタを接続するためのコネクタです。

注意

- **本商品には必ず付属の専用 AC アダプタをお使いください。付属の AC アダプタ以外は、本商品に接続しないでください。**
- **本商品に付属の専用 AC アダプタは、本商品以外に接続しないでください。**

⑤プッシュスイッチ

本商品のを工場出荷設定に戻すためのボタンです。

以下の手順で、本体のプッシュスイッチを押して工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. 本商品の電源プラグを電源コンセントから抜きます。
2. ボールペンの先などを使用して、本商品の前面にあるプッシュスイッチを押したまま、本商品の電源プラグを電源コンセントに差します。そのままプッシュスイッチを押し続けると設定の初期化が開始されます。
3. 電源ステータス LED（橙）が点灯状態になると設定の初期化が完了です。プッシュスイッチから指を離します。

⑥シリアルポート

シリアルケーブルを接続します

⑦ LAN ポート

パソコンやスイッチングハブを接続するためのポートです。

⑧ Ethernet アドレス

本商品の Ethernet アドレスが記載されています。

第２章
本商品の設定をする

この章では、本商品の設定の説明をしています。

2.1　設定の準備をする 18
2.2　本商品を設定する 19

2.1　設定の準備をする

本商品を設定する前に事前に準備をします。

■無線 LAN の設定情報を準備する

本商品を無線 LAN 環境で使用する場合は、ご利用の環境に合わせて無線 LAN 設定を行う必要があります。

無線モード：

「Ad hoc」モードと「Infrastructure」モードがあります。アクセスポイントを経由して通信を行う場合は「Infrastructure」モードを使用します。

SSID：

無線 LAN に接続する機器を識別するための名前です。「ESSID」と呼ばれることもあります。

暗号化の方法：

・暗号化しない：通信データの暗号化を行いません。（この場合は事前に準備する情報はありません。）

・WEP：暗号化キー（WEP キー）を基に通信データの暗号化を行います。本製品に通信相手機器と同じ「WEP キーサイズ（64bit / 128bit)」と「WEP キー」を設定する必要があります。

・WPA/WPA2：暗号化キー（共有キー）を基に通信データの暗号化を行います。本商品に通信相手機器と同じ「共有キー」と「暗号化形式（TKIP / AES / AUTO)」を設定する必要があります。

・本商品を有線 LAN で使用する場合は、無線 LAN の設定情報を準備する必要はありません。

2.2　本商品を設定する

本商品は以下の方法で設定をすることができます。

・有線 LAN で設定する（推奨）

本商品を LAN ケーブルでご使用のネットワーク環境に接続して、パソコンから初期設定を行うことができます。

・無線 LAN で設定する

本商品と無線 LAN 搭載のパソコン間を Ad hoc モードで無線通信して、本商品のネットワーク設定を行います。Ad hoc モードで本商品と無線通信するためには、パソコンの無線設定を本商品の無線設定と同じ設定にする必要があります。

・本商品を設置する前に、必ずご利用になるシリアルデバイスの「取扱説明書」をご確認ください。ご利用になるシリアルデバイスによって取り付け方法、および取り付け位置が異なる場合があります。

・本商品に付属しているACアダプタ以外のものを使用しないでください。故障の原因となります。

・本商品を一度でも他のネットワークで利用された場合は、必ず本商品の設定を工場出荷時設定に戻してください。

・市販のセキュリティソフトのファイアウォール機能をご利用の場合は、本商品の設定を行う間、ファイアウォール機能を無効にしておいてください。

■本商品の動作モード

本商品はご使用の環境に応じて、有線 LAN と無線 LAN のいずれかに切替えて利用することができます。動作モードの設定は、Web ブラウザで設定変更できます。工場出荷時設定では「AUTO」になっています。

・AUTO：本商品に LAN ケーブルが接続されていれば有線 LAN で、接続されていなければ無線 LAN で動作します。通常はこの設定でご使用ください。（初期値）

・WIRED：有線LAN機能のみが動作します。（無線LAN機能が無効になります。）

・WIRELESS：無線 LAN 機能のみ動作します。（有線 LAN 機能が無効になります。）

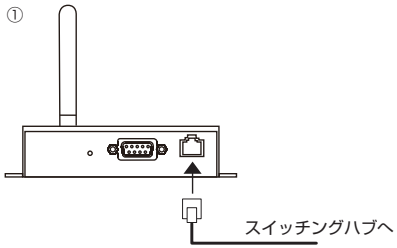
2.2.1　有線 LAN 経由で設定する

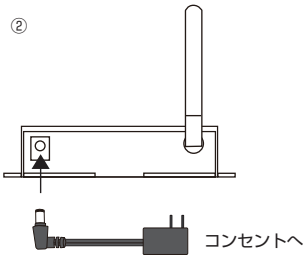
本商品に LAN ケーブルを接続してパソコンから初期設定を行います。

■本商品を取り付ける

①本商品に ＬＡＮ ケーブルを接続します。もう一方をネットワークに接続されているスイッチングハブ、ブロードバンドルータ、アクセスポイントもしくはパソコンに接続します。

②本商品に AC アダプタを接続して、電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

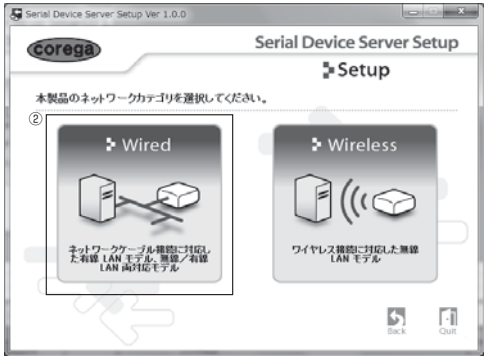




③本商品の本商品の電源ステータス LED（橙）が点灯して、ネットワークステータス LED（緑 / 黄色）の緑もしくは黄色の ＬＥＤ が点灯していることを確認します。

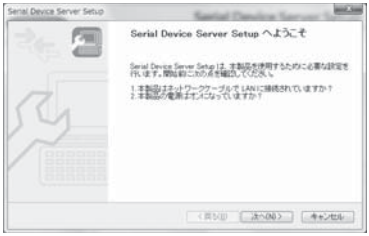
■本商品を設定する

コレガホームページからソフトウェアをダウンロードし、起動すると、下記メニュー画面が表示されますので「デバイスサーバの設定」→「Wired」の順にクリックします。



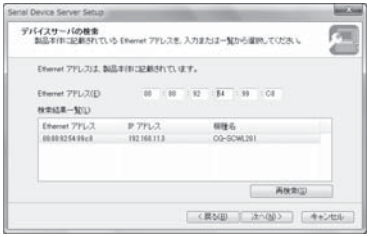
Serial Device Server Setup が起動します 。画面にしたがい「次へ」をクリックします。

①

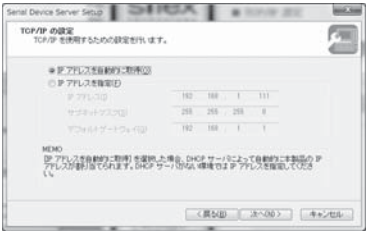


②

③



④



メモ

・本商品が工場出荷時設定の状態で、一覧表示された IP アドレスが「0.0.0.0」以外の値が表示されている場合は、本商品を接続したネットワーク環境に DHCP サーバ機能を持つネットワーク機器が設置されています。

・検索結果一覧に本商品が表示されていない場合は「再検索」をクリックしてください。

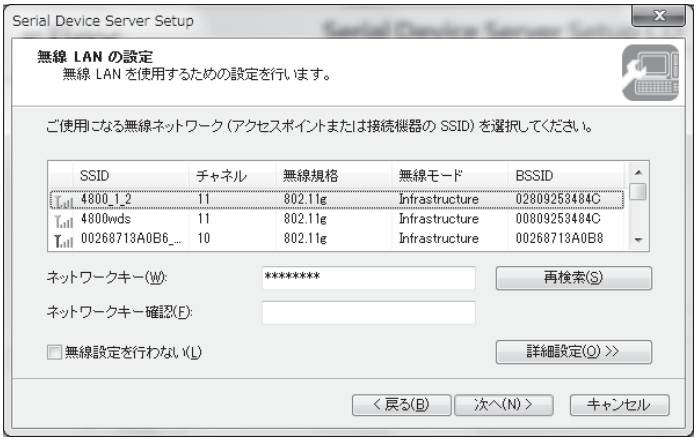
メモ

・IP アドレスを任意の値に設定する場合は「IP アドレスを指定」を選択して、任意の IP アドレスを設定し、「次へ」をクリックします。

注意
- IP アドレスはご利用環境に適したアドレスを指定してください。「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」は必要に応じて入力してください。
- 本商品を接続したネットワーク環境に DHCP サーバ機能を持つネットワーク機器がなく、設定に使用しているパソコンの IP アドレスが手動で割り当てられている場合は、「0.0.0.0」と表示されます。この場合は、IP アドレスを任意で設定してください。

■無線 LAN で設定する

無線 LAN で使用する場合は、無線ネットワークをリストから選択して **P.18**「2.1 設定の準備をする」で確認した無線ネットワークの暗号化キーを「ネットワークキー」と「ネットワークキー確認」に入力し、「次へ」をクリックします。



※ 有線 LAN 環境で本商品を使用する場合には、「無線設定を行わない」にチェックをして、「次へ」をクリックします。

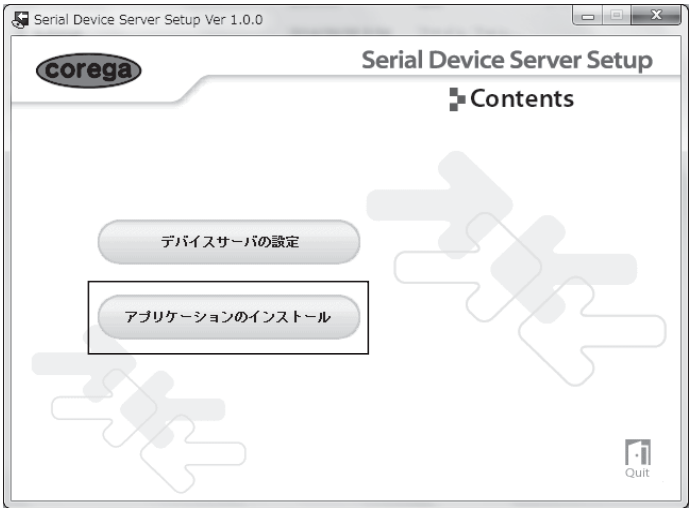
メモ
- ご使用になる無線ネットワークがリストに検索されない場合は、「詳細設定」をクリックして各項目の設定を行ってください。

設定した内容を確認して「実行」をクリックします。

下記の画面が表示されたら本商品の設定は完了です。本商品の再起動を行ってください。引き続き CG Device Link for Serial をインストールする場合は「はい」を選択し「完了」をクリックします。

2.2.2　CG Device Link for Serial をインストールする

メニュー画面から「アプリケーションをインストールする」を選択します。



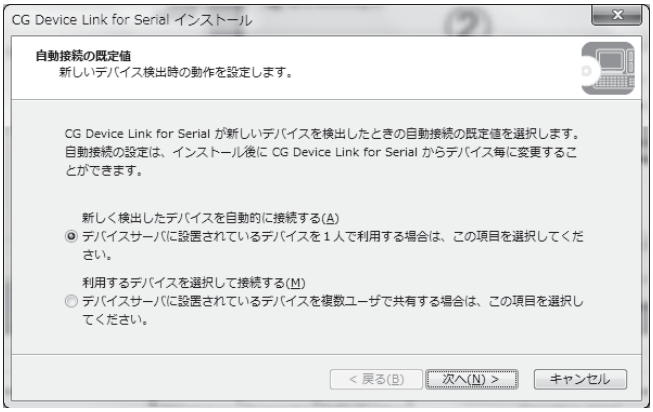
注意

・インストールは Administrator（管理者）権限を持つユーザで実行してください。

・**Windows Vista / Server 2008のパソコンでインストールすると、ユーザーアカウント制御画面が表示されます。「続行」をクリックしてください。**

インストール画面が表示されます。使用許諾、インストール先フォルダ、スタートメニューに表示されるグループ名を設定して「次へ」をクリックします。

新しいシリアルデバイスを検知した際の動作を選択して、「次へ」を選択します。



最後に「完了」をクリックしてインストールは完了です。

CG Device Link for Serial が起動します。

第３章
本商品を使いこなす

この章では、本商品の便利な機能について説明しています。

3.1　CG Device Link for Serial を使用する 28
3.2　接続先を指定して通信する (eCable Mode) 31
3.3　TCP Raw Port を使用して通信する（Raw TCP Connection Mode) .33
3.4　複数の本商品にデータを同時送信する (UDP Multicast Mode) .35
3.5　Web ページで詳細設定をする 38

3.1　CG Device Link for Serial を使用する

■ CG Device Link for Serial について

CG Device Link for Serial では Serial Port Emulation Mode 機能を使用してシリアルデバイスとネットワーク通信を行うことができます。

Serial Port Emulation Mode 機能とは、本商品の付属アプリケーションを使って、標準的な Windows COM ポートの動作をネットワーク上で通信する機能です。この機能を使用すると、ユーザはターミナルソフトウェアなどの現在使用しているシリアルポート通信ソフトウェアを使用して、シリアルデバイスとネットワーク通信を行うことができます。

■ CG Device Link for Serial を起動する

タスクトレイにある本商品のアイコンをクリックすると操作ウインドウが表示され、ネットワーク上のシリアルデバイスが一覧表示されます。

メモ

・CG Device Link for Serialが起動していない場合は、「スタート」－「（すべての）プログラム」－「CG Device Link for Serial」から「CG Device Link for Serial」をクリックします。

■シリアルデバイスに接続する

CG Device Link for Serial の操作ウインドウで接続するシリアルデバイスを選択し、以下の方法で接続操作を行います。

・マウスクリックで接続する：操作ウインドウで、接続するシリアルデバイスをダブルクリックします。

・ ボタンで接続する：操作ウインドウで、接続するシリアルデバイスを選択して、接続ボタンをクリックします。

・右クリックメニューで接続する：操作ウインドウで、接続するシリアルデバイスを選択して右クリックし、表示されたメニューから「接続」を選択します。

・キーボードで接続する：キーボードの上下キーで、使用するシリアルデバイスを選択して Alt キーを押しながら C キーを押して接続します。

シリアルデバイスとの接続に成功すると、CG Device Link for Serial のメイン画面に表示されるステータスが「接続中」に変化します。通信で使用する COM ポートはステータス欄に表示されます。

メモ

・新しいハードウェアの検出ウィザード画面が表示された場合は、OS 画面の手順にしたがってソフトウェアのインストールを行ってください。

■シリアルデバイスを切断する

CG Device Link for Serial の操作ウインドウで切断するシリアルデバイスを選択し、以下の方法で切断操作を行います。

・マウスクリックで切断する：切断したいシリアルデバイスを選択してダブルクリックします。

・ボタンで切断する；切断したいシリアルデバイスを選択して切断ボタンをクリックします。

・右クリックメニューで切断する：切断したいシリアルデバイスを選択して右クリックし、表示されたメニューから「切断」を選択します。

・キーボードで切断する：キーボードの上下キーで切断したいシリアルデバイスを選択して、Alt キーを押しながらＤキーを押します。

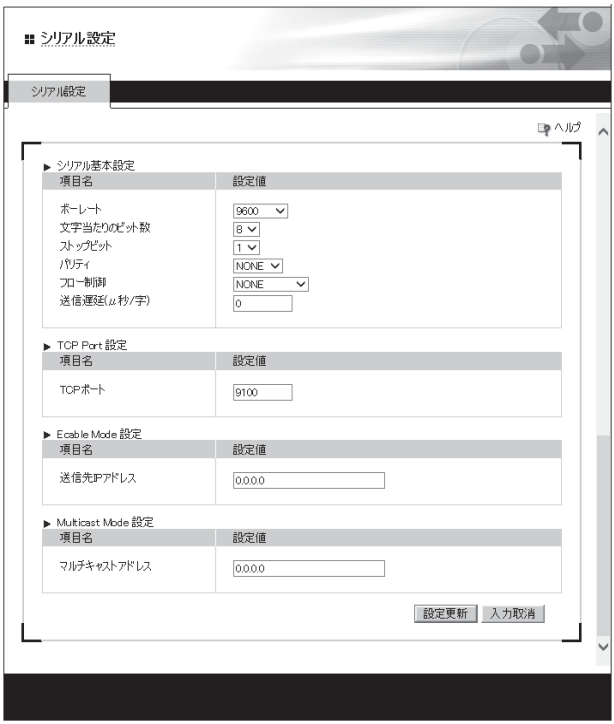
3.2　接続先を指定して通信する (eCable Mode)

本商品を 2 台使用して、ネットワークインタフェースを持たないシリアルデバイスどうしを通信させることができます。本商品の一方を送信器、もう一方を受信器として使用し、送信器に接続先アドレスとして受信器の IP アドレスを登録します。電源投入時に本商品どうしがネットワーク接続を確立し、本商品に接続されたシリアルデバイス機器間での双方向通信が可能になります。

①送信機器として使用する本商品に Web ブラウザでアクセスします。

> ・Web ブラウザへのアクセス方法は **P.38**「3.5　Web ページで詳細設定をする」をご参照ください。

②「シリアル設定」をクリックします。



③本商品に接続したシリアルデバイスの通信設定にあわせて、下記の「シリアル基本設定」を設定します。

・ボーレート

・文字当たりのビット数

・ストップビット

・パリティ

・フロー制御

・送信遅延 (μ 秒 / 字)
※ 通常は初期値のまま使用して、通信時に微調整が必要な場合にのみ設定してください。

「送信先 IP アドレス」に通信先となる本商品の IP アドレスを設定します。

「TCP ポート」に通信に使用するポート番号を設定します。

設定が完了したら、「設定更新」をクリックします。

④受信機器として使用する本商品にも、Web ブラウザでアクセスして、「シリアル基本設定」、「TCP ポート」、「送信先 IP アドレス」の設定を行います。

> **注意**　**・「TCP ポート」の設定は送信機器、受信機器で同じ番号を設定してください。**

設定が完了したら、「設定更新」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

⑤双方のシリアルデバイスを起動した後、本商品を起動します。

本商品の起動が完了すると、シリアルデバイス間で双方向でのシリアル通信が可能になります。

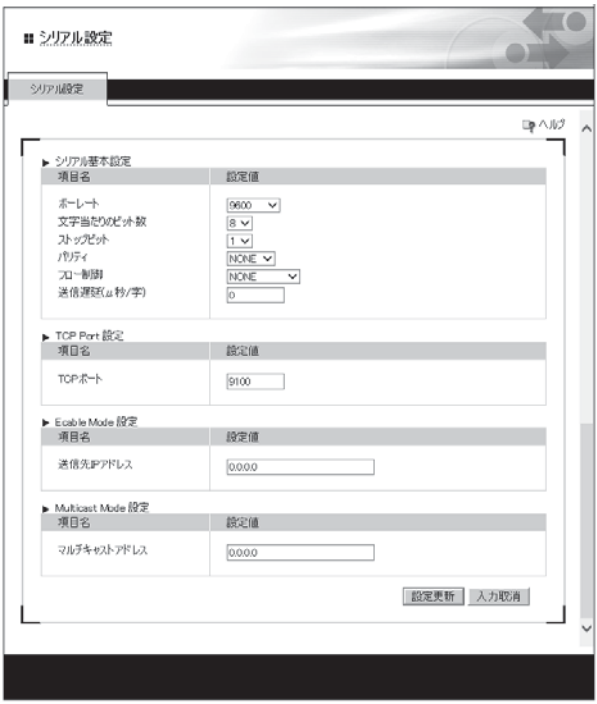
3.3　TCP Raw Port を使用して通信する（Raw TCP Connection Mode）

TCP/IP通信上でシリアルポートのデータを透過的に送受信することができます。これにより、TCP Socket API を使用したアプリケーションプログラムから、シリアルデバイスに対して直接通信をすることができます。

①本商品に Web ブラウザでアクセスします。

> メモ
> ・Web ブラウザへのアクセス方法は **P.38** 「3.5　Web ページで詳細設定をする」をご参照ください。

②「シリアル設定」をクリックします。



③本商品に接続したシリアルデバイスの通信設定にあわせて、下記の「シリアル基本設定」を設定します。

・ボーレート

・文字当たりのビット数

・ストップビット

・パリティ

・フロー制御

・送信遅延 (μ 秒 / 字)
※ 通常は初期値のまま使用して、通信時に微調整が必要な場合にのみ設定してください。

「TCP ポート」にアプリケーションで使用するポート番号を設定します。

設定が完了したら、「設定更新」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

④本商品に接続したシリアルデバイスを起動した後に、本商品を起動します。

パソコンから TCP Socket API を使用したアプリケーションを起動して、接続が確立すると、シリアルデバイスとの双方向通信が可能になります。

3.4　複数の本商品にデータを同時送信する (UDP Multicast Mode)

特定のアプリケーションプログラムから、IP マルチキャストアドレスを使用して、複数の本商品に対してデータを送信することができます。これにより、UDP Socket API を使用したアプリケーションプログラムから、複数のシリアルデバイスに対して同一データの同時送信が可能になります。

この機能は、パソコンから本商品に対しての通信のみをサポートしており、シリアルデバイスからのデータはパソコンに対して返信されません。

複数のシリアルデバイスに対して同一情報を一斉通知する場合に、ネットワークの通信負荷を上げずに通信をすることができます。

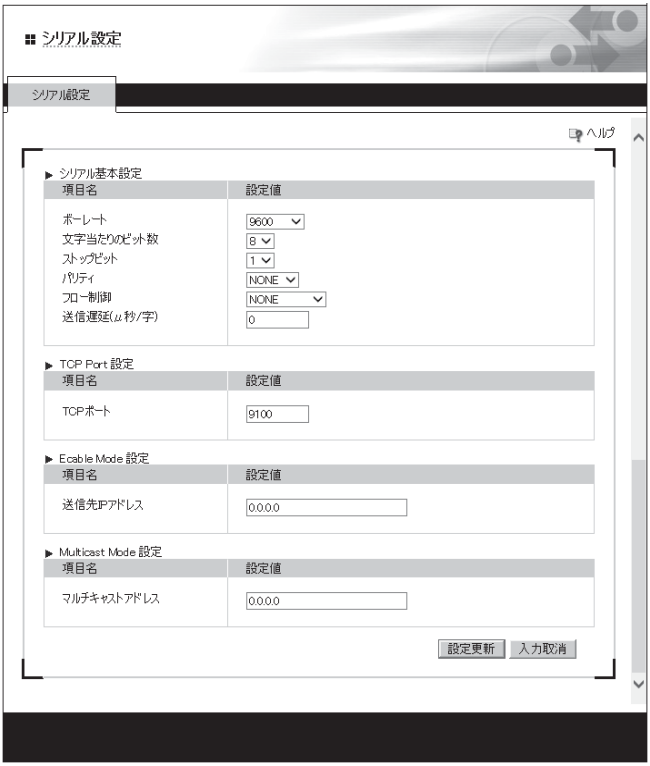
また、この機能を使用するように設定された本商品は、同一の IP マルチキャストアドレスが割り当てられた機器のみでグループを構成して、設定された IP マルチキャストアドレス宛てに送信されたデータを受信します。異なる IP マルチキャストアドレスを割り当てた本商品のグループを形成することもでき、同一の IP マルチキャストアドレスを割り当てたグループ単位で情報伝達の分類を行う環境を構築することも可能です。

この機能で使用する通信ポートは UDP #9100 ポートです。

①本商品に Web ブラウザでアクセスします。

・Web ブラウザへのアクセス方法は **P.38** 「3.5　Web ページで詳細設定をする」をご参照ください。

②「シリアル設定」をクリックします。



③本商品に接続したシリアルデバイスの通信設定にあわせて、下記の「シリアル基本設定」を設定します。

・ボーレート

・文字当たりのビット数

・ストップビット

・パリティ

・フロー制御

・送信遅延 (μ 秒 / 字)
※ 通常は初期値のまま使用して、通信時に微調整が必要な場合にのみ設定してください。

「マルチキャストアドレス」にアプリケーションで使用する IP マルチキャストアドレスを設定します。

> ・使用可能な IP マルチキャストアドレスの範囲は以下になります。
> 224.0.1.0 ～ 239.255.255.255

設定が完了したら、「設定更新」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

この設定を、使用する本商品すべてに実行します。

④本商品に接続したシリアルデバイスを起動した後に、本商品を起動します。

パソコンから UDP Socket API を使用したアプリケーションを起動して、本商品に割り当てたIPマルチキャストアドレス宛てにシリアルデバイスの制御コマンドを送信することで、複数台の本商品に制御コマンドを一斉通知することができます。

3.5　Web ページで詳細設定をする

Web ページを利用して、本商品の詳細な設定を行う方法について説明します。

Web ページにアクセスするには以下の方法があります。

・CG Device Link for Serial からアクセスする

・Web ブラウザからアクセスする

■ CG Device Link for Serial からアクセスする

CG Device Link for Serial を起動し、設定を行う本商品を選択して、「プロパティ」ボタンを押し、プロパティ画面の「デバイスサーバ情報」をクリックします。

Web ブラウザが起動し、Web ページが表示されます。

■ Web ブラウザからアクセスする

Web ブラウザのアドレスバーに、本商品の IP アドレスを直接入力します。

Web ページが表示されます。

設定したい項目のいずれかをクリックするとログイン画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。

> メモ
> ・工場出荷時の設定は以下になります。
> ユーザー名；root
> パスワード；空欄

ユーザー名とパスワードを入力するとクリックしたページが表示されます。

■ Web ページの項目と初期値

Web ページでは以下の設定をすることができます。

・ネットワーク設定

・シリアル設定

・セキュリティ

・メンテナンス情報

■ネットワーク設定

「基本設定」、「TCP/IP 設定」「無線 LAN 設定」の３つの設定があります。

■基本設定

・LAN インタフェース（初期値：AUTO）：
物理ネットワークを選択します。

・ネットワークモード（初期値：AUTO）：
AUTO/WIRED/WIRELESS から、ネットワークへの接続方法を選択します。

■ TCP/IP 設定

・ホスト名（初期値：CG+Ethernet アドレスの下６桁）：
本商品のホスト名を入力します。

・DHCP/BOOTP（初期値：ENABLE）：
DHCP/BOOTP プロトコルの動作を「許可」または「禁止」します。

・IP アドレス（初期値：0.0.0.0）：
本商品の IP アドレスを入力します。

・サブネットマスク（初期値：0.0.0.0）
本商品のサブネットマスクを入力します。

・デフォルトゲートウェイ（初期値：0.0.0.0）
本商品のゲートウェイの IP アドレスを入力します。

・プライマリサーバ / セカンダリサーバ　（初期値：0.0.0.0）
WINS サーバ（プライマリ / セカンダリ）の IP アドレスを入力します。

・スコープ ID（初期値：なし）
WINS 環境のグループ ID を入力します。

■無線 LAN 設定

・無線モード（初期値：AdHoc）：
本商品の無線モードを「AdHoc」または「Infra.」から選択します。

・SSID（初期値：GROUP）：
本商品の SSID を入力します。

・通信チャネル（初期値：11）：
本商品の通信チャネルを設定します。

・802.11g Ad hoc モード（初期値：ON）：
Ad hoc モードを利用する際に、IEEE 802.11g Ad hoc に対応する機器間で高速通信をすることができます。

・ネットワーク認証（初期値：Open）：
ネットワーク認証のモードを「Open」「Shared」「WPA」「WPA2」から選択します。

・802.1X 認証（初期値：OFF）：
本商品の無線 LAN 接続で IEEE802.1X 認証機能の「有効（ON）」または「無効（OFF）」を選択します。

・WEP（初期値：OFF）：
本商品の WEP の使用有無を「ON」または「OFF」を選択します。

・WEP キー自動供給（初期値：YES）：
WEP キー自動供給の「有効（YES）」または「無効（NO）」を選択します。

・キーインデックス（初期値：1）：
WEP キー 1 ～ 4 のうち、デフォルトとする WEP キーを設定します。

・キーサイズ（初期値：64bit）：
WEP キーのキーの長さを「64bit」または「128bit」から選択します。

・キー入力方式（初期値：16 進表記）：
WEP キーの入力方式を「英数字」または「16 進表記」から選択します。

・WEP キー 1 ～ 4（初期値：0000000000 ）：
本商品の WEP キーを入力します。

・暗号化形式（初期値：AUTO）：
WPA/WPA2 で送受信データを暗号化する方式を「TKIP」「AES」「AUTO」から選択します。

・共有キー（初期値：空欄）：
WPA の Pre-Shared Key（共有キー）を入力します。

・802.1X 認証モード（初期値：EAP-TLS）：
IEEE802.1X 認証で使用する認証方式を選択します。

・内部認証方式（初期値：認証モードに依存）：
IEEE802.1X 認証の EAP-TTLS、EAP-PEAPv0、EAP-PEAPv1 で使用する内部認証を設定します。

・サーバ証明書の検証（初期値：なし）：
IEEE802.1X 認証の EAP-TTLS、EAP-PEAPv0、EAP-PEAPv1 において、RADIUS サーバから送信されてくるサーバ証明書を検証するか選択できます。

> **注意**
> **・サーバ証明書の検証を行うにはCA証明書を登録する必要があります。**

・802.1X ユーザ名（初期値：なし）：
IEEE802.1X認証で使用するユーザ名を64文字までの英数字文字列で入力します。

・802.1X パスワード（初期値：なし）：
IEEE802.1X認証で使用するパスワードを32文字までの英数字文字列で入力します。

・PAC ファイル自動配布（初期値：OFF）：
IEEE802.1X 認証の EAP-FAST において、RADIUS サーバが自動で配布する PAC ファイルを使用するかを選択できます。

> **注意**
> **・RADIUS サーバが自動で配布する PAC ファイルを使用しない場合は手動で PAC ファイルを登録する必要があります。**

・チャネル番号 1 ～ 14（初期値：全てのチャネルが有効）：
無線 LAN 接続時に行うチャネルスキャンの対象チャネルを制限します。

必要な項目を入力し、完了後に「設定更新」をクリックします。：

■シリアル設定

本商品のシリアルポートの設定をすることができます。

・ボーレート（初期値：9600）：
ポートがデータを送受信する速度を設定します。

・文字当たりのビット数（初期値：8）：
文字当たりのビット数を「7」または「8」から選択します。

・ストップビット（初期値：1）：
各文字直後のストップビット数を「1」または「2」から選択します。

・パリティ（初期値：NONE）：
各文字のパリティ方式を「NONE」「ODD」「EVEN」から選択します。

・フロー制御（初期値：NONE）：
フロー制御方法を「NONE」「XON」「XOFF」「RTS」「CTS」から選択します。

・送信遅延 (μ 秒 / 字)（初期値：0）：
一文字送信毎の待ち時間を「0」～「65535」から入力します。シリアル通信で、取りこぼしが発生する場合に設定してください。

・TCP ポート（初期値：9100）：
Ecable モードおよび Raw TCP Connection モードで接続する際に使用する TCP ポートを「1023」～「65535」から指定します。

・送信先 IP アドレス（初期値：0.0.0.0）：
Ecableモードでコネクションを確立するデバイスのIPアドレスを入力します。

・マルチキャストアドレス（初期値：0.0.0.0）：
UDP Multicast モードで使用する IP マルチキャストアドレスを入力します。

必要な項目を入力し、完了後に「設定更新」をクリックします。

■セキュリティ

パスワードの設定

・ 新しいパスワード（初期値：なし）：
本商品の管理パスワードを ASCII 文字列（16 文字以内）で設定します。このパスワードは Web ブラウザで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。

IP Filter 設定

・動作モード （初期値：DENY ）：
IP フィルタの動作を「ALLOW」または「DENY」から選択します。「ALLOW」にすると設定した IP アドレス範囲からのみデータを受けとります。「DENY」にすると設定した IP アドレス範囲からのデータを受けとりません。

・指定する IP アドレスの範囲 1 ～ 4（初期値：0.0.0.0）：
IP フィルタの範囲を設定します。フィルタしたい IP アドレスの範囲を 4 組まで設定できます。

証明書設定

クライアント証明書

・証明書ファイル（初期値：なし ）：
IEEE802.1X 認証で本商品を認証する為に使用する証明書を登録します。登録可能な証明書のファイルは秘密鍵を含む形式のものとなります。

・パスワード（初期値：なし ）：
クライアント証明書から秘密鍵を取り出す為のパスワードを設定します。

CA 証明書

・証明書ファイル（初期値：なし ）：
IEEE802.1X 認証で RADIUS サーバから送信されてくるサーバ証明書を認証する為の CA 証明書を登録します。本商品でサーバ証明書の認証に使用できるのはサーバ証明書を直接発行した CA の証明書となります。

PAC 証明書

・証明書ファイル（初期値：なし ）：
IEEE802.1X認証のEAP- FASTで相互に認証されたトンネルを確立するために PAC(Protected Access Credential) を登録します。

・パスワード（初期値：なし ）：
PAC ファイルをインポートする際に使用するパスワードを設定します。

SSL 設定

・SSL 暗号化（初期値：DISABLE）：
SSL の動作を許可／禁止します。

・暗号化方式（初期値：ALL）：
データ暗号化アルゴリズムを選択します。

証明書作成

・国 / 地域コード（初期値：なし ）：
国／地域コード（二文字の文字列）を設定します。

・都道府県名（初期値：なし ）：
都道府県を設定します。

・市区町村名（初期値：なし ）：
市区町村を設定します。

・組織名（初期値：なし ）：
組織名を設定します。

・部門名（初期値：なし ）：
部門名を設定します。

・一般名（初期値：なし ）：
任意の名称を設定します。

・メールアドレス（初期値：なし ）：
E-mail アドレスを設定します。（空白許可）

・発行日（初期値：現在日時 ）：
PC から現在時刻を取得した協定世界時（UTC）で表示します。
※ 固定設定となっており設定変更はできません。

・有効期限（初期値：2049/12/31 UTC ）：
証明書の有効期限日を設定します。
※ 有効期限は 2049/12/31 以降は設定できません。

■メンテナンス情報

・再起動
本商品を再起動します。

・工場出荷時設定
本商品を工場出荷時の状態に戻します。

・ファームウェアのアップデート
ファームウェアのアップデートをすることができます。

・最新のファームウェアはコレガホームページ（http://corega.jp/）をご確認ください。

・コレガホームページ
コレガホームページ（http://corega.jp/）にアクセスすることができます。

第４章
トラブル解決と Q&A

この章では、トラブルの対処法やよくある質問について説明しています。

4.1　トラブル対処の方法 47
4.2　本商品のトラブル 48

4.1　トラブル対処の方法

本商品を使っていて困ったときは、次のステップに従って対処方法を確認してください。

STEP1	**「取扱説明書」（本書）で設定を再確認する** **管理者などに問い合わせる**

それでも解決できないときは …

STEP3	**コレガホームページ（http://corega.jp/）の情報を活用する** 本商品の最新情報、よくあるお問い合わせ、最新ファームウェア・ソフトウェアなどを提供しています。

それでも解決できないときは …

STEP4	**コレガサポートセンタに問い合わせる** 連絡先は本書の裏表紙をご覧ください。

4.2　本商品のトラブル

本商品について、よくあるトラブルとその対処方法を説明します。

4.2.1　電源が入らない

電源が入らないときは、AC アダプタのケーブルが断線していないか、AC アダプタが正しく接続されているか、正しい電源・電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。それでも電源が入らない場合は、本商品に問題がある可能性があります。次の項目をご覧になり、修理を依頼してください。

☞P.66「付録　保証と修理について」

4.2.2　設定画面が表示されない

本商品の設定画面が表示されないときは、次の項目を確認してください。

■セキュリティソフトを停止する

セキュリティソフトが動作していると、本商品を設定できないことがあります。本商品を設定するときは、一時的にセキュリティソフトの動作を停止させてください。本商品の設定が完了したら、セキュリティソフトの動作を再開してください。

セキュリティソフトの停止方法、再開方法については、お使いのセキュリティソフトのマニュアルをご覧いただくか、ソフトウェアメーカへお問い合わせください。パソコンのご購入時にセキュリティソフトがインストールされていた場合は、パソコンメーカへお問い合わせください。

■ OS のファイアウォール機能を無効にする

ファイアウォール機能の設定方法は、お使いの OS により異なります。

☞P.49「○ Windows 8 の場合」

☞P.50「○ Windows 7 の場合」

☞P.52「○ Windows Vista の場合」

○ Windows 8 の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にしてください。

> **注意**　本商品の設定が完了したあとは、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

1 **スタート画面でデスクトップをクリックします。**

2 **「画面の左下にマウスカーソルを移動し、「スタート」のポップアップが表示されたら右クリックし、エクスプローラをクリックします**

3 **コンピュータータブ①ー「コントロールパネル」②の順にクリックします。**

引き続き、P.50「○ Windows 7 の場合」の手順 2 に進んでください。

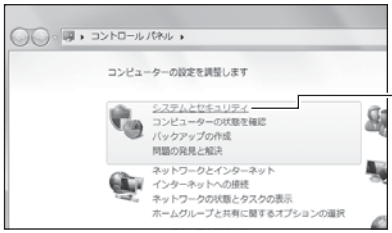
○ Windows 7 の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にしてください。

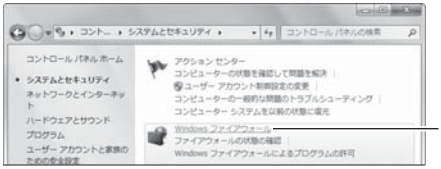
> **注意** **本商品の設定が完了したあとは、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。**

1 **[スタート] ー「コントロールパネル」の順にクリックします。**

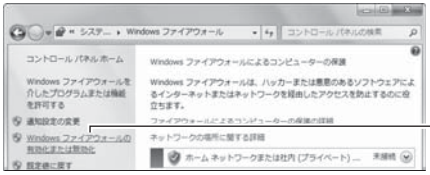
2 **「システムとセキュリティ」をクリックします。**



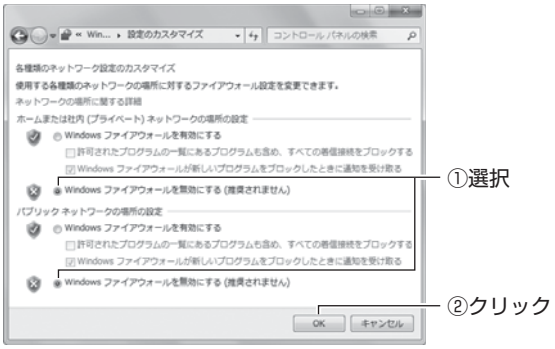
3 「Windows ファイアウォール」をクリックします。



4 「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」をクリックします。



5 「Windows ファイアウォールを無効にする(推奨されません)」を選択し、[OK] をクリックします。



これでファイアウォールが無効になりました。

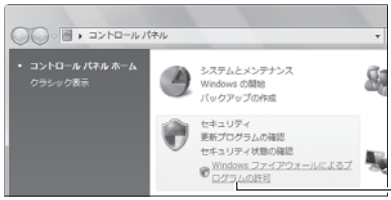
○ Windows Vista の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にしてください。

> **注意** 本商品の設定が完了したあとは、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

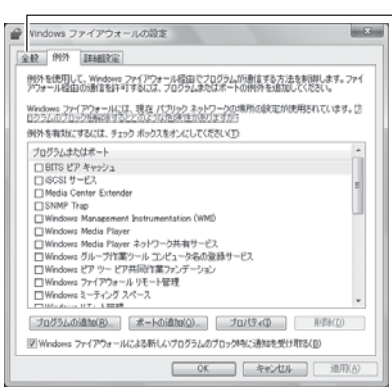
2 「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。



> **メモ** クラシック表示の場合は、「コントロールパネルホーム」をクリックすると手順２の画面が表示されます。

3 「ユーザーアカウント制御」画面で、［続行］をクリックします。

4 全般タブをクリックします。



5 「無効（推奨されません）」を選択し、[OK] をクリックします。

これでファイアウォールが無効になりました。

■ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認する

次の手順で、ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認してください。

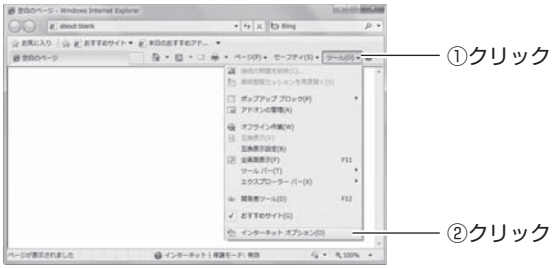
メモ

・プロバイダが提供している接続ツールなどがインストールされていると、正しく設定できないことがあります。その場合は、接続ツールをアンインストールしてください。

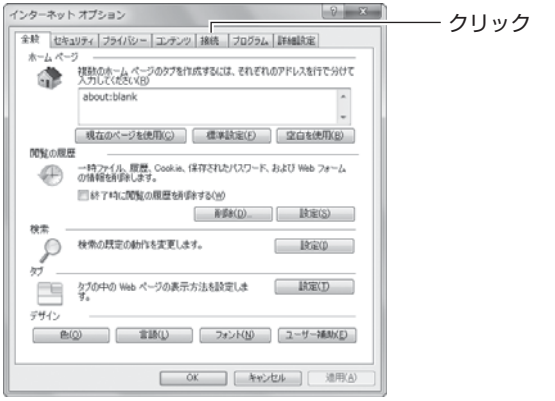
・画面は Internet Explorer 8 の例です。お使いの環境によって画面が異なります。

1 Internet Explorer を起動します。

2 「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。



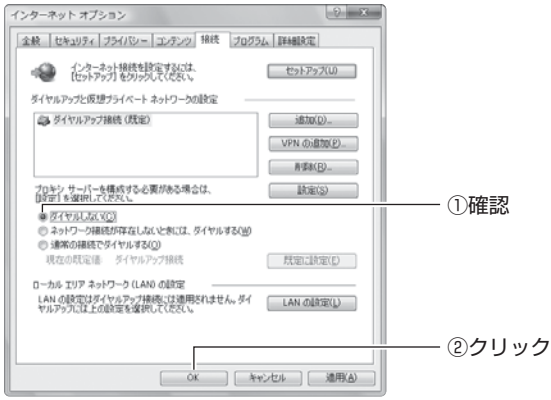
3 接続タブをクリックします。



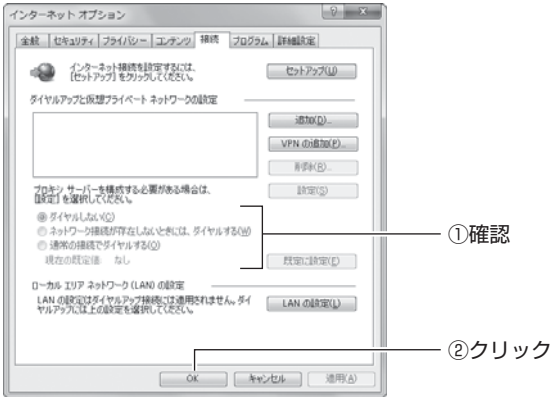
4 「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」を確認します。

「ダイヤルしない」が選択されているか、またはグレーアウトされて選択できないことを確認し、［OK］をクリックします。

○「ダイヤルしない」が選択されている場合



○グレーアウトされている場合



これでダイヤルアップ接続を使用していないことを確認できました。

■ Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認する

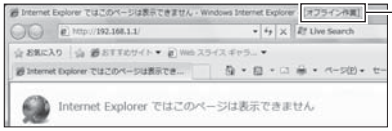
次の手順で、Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認してください。

> メモ　画面は Internet Explorer 8 の例です。お使いの環境によって画面が異なります。

1　Internet Explorer を起動します。

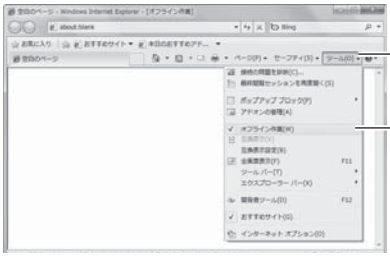
2　タイトルバーを確認します。

オフラインになっていると、タイトルバーに［オフライン作業］と表示されます。



3　「ツール」－「オフライン作業」の順にクリックし、チェックを外します。

Internet Explorer 6 の場合は、「ファイル」－「オフライン作業」の順にクリックし、チェックを外します。



4　タイトルバーに [オフライン作業] が表示されていないことを確認します。

これで Internet Explorer がオフラインになっていないことが確認できました。

■プロキシサーバを使用していないことを確認する

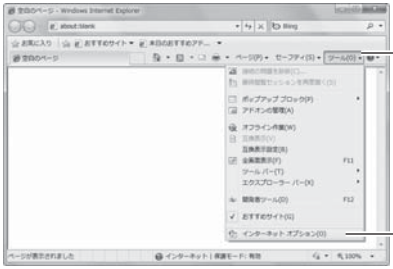
○ Windows の場合

次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認してください。

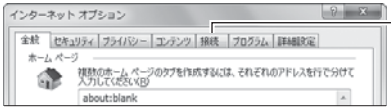
> メモ　画面は Internet Explorer 8 の例です。お使いの環境によって画面が異なります。

1 Internet Explorer を起動します。

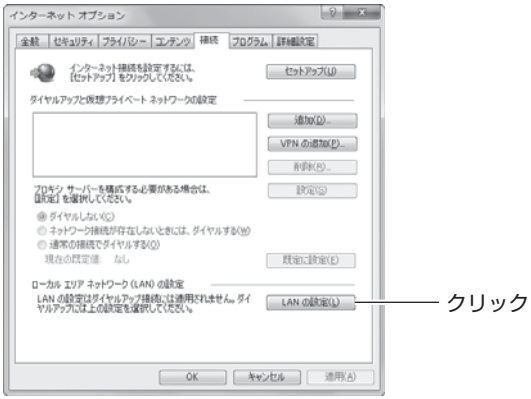
2 「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。



3 接続タブをクリックします。



4　［LAN の設定］をクリックします。



5　「プロキシサーバー」を確認します。

「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックが付いていないことを確認し、［OK］をクリックします。

6　手順 4 の画面が表示されます。[OK]をクリックします。

これでプロキシサーバを使用していないことが確認できました。

■パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認する

IP アドレスの設定方法は、お使いの OS により異なります。

☞P.59 「○ Windows 8 の場合」

☞P.60 「○ Windows 7/Vista の場合」

○ Windows 8 の場合

次の手順で、パソコンのIPアドレスが自動取得になっていることを確認してください。

1　スタート画面を表示している場合は、「デスクトップ」をクリックし、デスクトップモードを表示します。

2　画面右下の通知領域の アイコンを右クリックし、「ネットワークと共有センターを開く」をクリックします。

ここまでの手順は Windows8 のみになります。このあとの手順は、Windows 7 の場合の手順と同じです。引き続き、P.60 「○ Windows 7/Vista の場合」の手順 4 に進んでください。

○ Windows 7/Vista の場合

次の手順で、パソコンのIPアドレスが自動取得になっていることを確認してください。

> メモ　画面は Windows 7 の例です。お使いの環境によって画面が異なります。

1　[スタート] －「コントロールパネル」の順にクリックします。

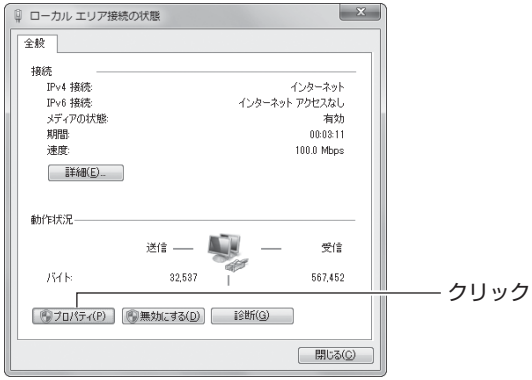
2　「ネットワークとインターネット」をクリックします。

3　「ネットワークと共有センター」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」をクリックします。

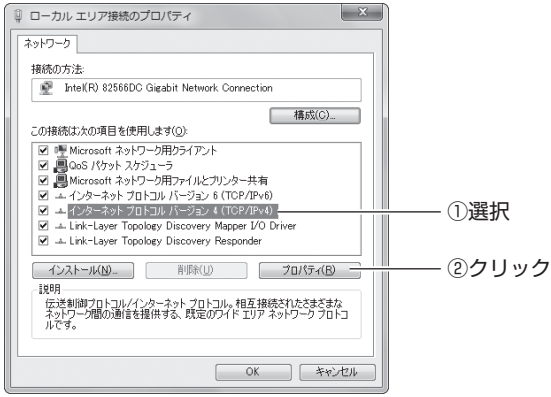
Windows Vista の場合は、「状態の表示」をクリックします。

5　[プロパティ] をクリックします。



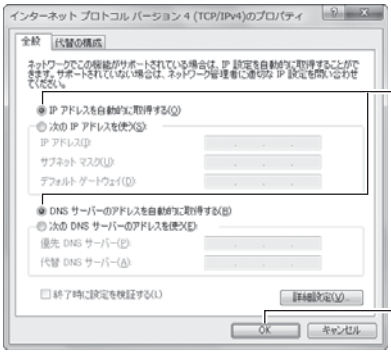
6　【Windows Vista のみ】ユーザーアカウント制御画面で、[続行] をクリックします。

7　「インターネットプロトコルバージョン４(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

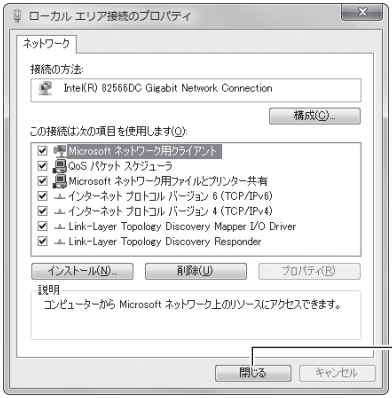


8 設定を確認します。

「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。



9 [閉じる] をクリックします。



10 ［閉じる］をクリックします。

これでパソコンのIPアドレスが自動取得になっていることが確認できました。

付録

仕様一覧 65
保証と修理について 66
おことわり 67

仕様一覧

サポート規格	無線 LAN	IEEE 802.11b/g　※1
	LAN	10BASE-T、100BASE-TX（自動認識）　※2
取得承認		VCCI クラス B、技術基準適合証明
対応 OS	Serial Device Server Setup	Windows 8.1（32/64bit/8（32/64bit）/7（32/64bit）/Vista（32/64bit）/XP（32/64bit）/2000、Windows Server 2003/2008（32/64bit）　※3
	CG Device Link for Serial	Windows 8.1（32/64bit）/8（32/64bit）/7（32/64bit）/Vista（32/64bit）/XP（32/64bit）/2000、Windows Server 2003/2008（32/64bit）　※4
セキュリティ		WPA2-PSK(AES/AUTO)、WPA-PSK(TKIP/AES/AUTO)、WEP(64/128Bit)、IEEE802.1X（EAP-TLS）
インターフェース	デバイス	RS-232C（DB9 オス）×1 ポート
	ネットワーク	RJ-45 ×1
対応プロトコル		TCP/IP
電源仕様（AC アダプタ）	入力電圧	AC100V（50/60Hz）
	定格入力電流	400mA
最大消費電力		3.7W
環境条件	動作時	温度 0 ～ 50 ℃／湿度 10 ～ 90%（結露なきこと）
	保管時	温度－ 20 ～ 70 ℃／湿度 20 ～ 90%（結露なきこと）
外形寸法		125.8（W）× 75.2（D）× 24.1（H）mm 本体のみ（突起部を含まず）
質量		335g 本体のみ
パッケージ内容		本体 AC アダプタ 安全にお使いいただくためにお読みください（製品保証書を含む） 無線 LAN アンテナ ゴム足

※1無線 / 有線 LAN は、排他利用、どちらも有効な環境では有線 LAN が優先となります。（設定で固定にすることも可能です）

※2AUTO-MDI/MDIX に対応します。

※3Internet Explorer 5.0 以上。Fast User Switching Function には対応していません。Windows 8 環境では、クラシックデスクトップアプリとして動作します。Windows RT には対応していません。

※4Fast User Switching Function には対応していません。Windows 8 環境では、クラシックデスクトップアプリとして動作します。Windows RT には対応していません。

保証と修理について

■保証について

「製品保証書」に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本商品を正しくご使用ください。無条件で本商品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。

本商品の保証期間については、「製品保証書」に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書をご覧いただき、正しく設定・接続できていることを確認してください。現象が改善されない場合は、コレガホームページに掲載されている「修理依頼用紙」をプリントアウトのうえ、必要事項を記入したものと「製品保証書」および購入日の証明できるもののコピー（領収書、レシートなど）を添付し、商品（付属品一式とともに）をご購入された販売店へお持ちください。

修理をご依頼される場合は、次の点にご注意ください。

・弊社へのお持ち込みによる修理は受け付けておりません。

・修理期間中の代替機などは弊社では用意しておりませんので、あらかじめご了承ください。

・「製品保証書」に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。

・商品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。

・修理依頼時の運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・修理完了後、本商品の設定は初期化状態（工場出荷時の状態）に戻りますので、あらかじめご了承ください。

■有償修理について

有償修理の場合は、ご購入された販売店へお持ちください。下記 URL に有償修理価格、修理受付期間などが記載されていますのでご覧ください。

http://corega.jp/repair/

おことわり

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。
また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本商品は、GNU General Public License Version 2 に基づき許諾されるソフトウェアのソースコードを含んでいます。これらのソースコードはフリーソフトウェアです。お客様は、Free Software Foundation が定めた GNU General Public License Version 2 の条件に従ってこれらのソースコードを再頒布または変更することができます。これらのソースコードは有用と思いますが、頒布にあたっては、市場性および特定目的適合性についての暗黙の保証を含めて、いかなる保証もしません。詳細については、コレガホームページ内の「GNU 一般公有使用許諾書（GNU General Public License）」をお読みください。なお、ソースコードの入手をご希望されるお客様は、コレガホームページ、サポート情報内の個別製品の「ダウンロード情報」をご覧ください。配布時に発生する費用はお客様のご負担になります。

■輸出管理と国外使用について

- お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出しまたは「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。
- 弊社販売製品は、日本国内仕様であり日本国外においては、製品保証および品質保証の対象外になり製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

Copyright©2014　アライドテレシスホールディングス株式会社
corega は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカの商標または登録商標です。

2014 年 10 月 Rev.A

■コレガホームページのご案内

コレガホームページでは、各種商品の最新情報、最新ファームウェア、よくあるお問い合わせなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

http://corega.jp/

■商品に関するご質問は・・・

商品についてご不明な点がある場合はコレガホームページの「よくあるお問い合わせ」をご覧ください。また、「故障かな？」と思った場合には「故障確認フロー」もありますのでご利用ください。

○よくあるお問い合わせ

コレガホームページ TOP から「サポート情報」→「保証・サポート窓口」の順にクリックしてください。または、下記 URL にアクセスしてください。

http://corega.okbiz.okwave.jp/

○保証サポート窓口（故障確認フロー）

コレガホームページ TOP から「サポート情報」→「保証・サポート窓口」の順にクリックしてください。または、下記 URL にアクセスしてください。

http://corega.jp/support/inquiry/

「修理・故障について」の項目内に「故障確認フロー」があります。

解決されない場合は、コレガサポートセンタまでお問い合わせください。

【コレガサポートセンタ】

メールサポート：下記 URL をご覧ください。

http://corega.okbiz.okwave.jp/

電話　045-476-6268

〈受付時間〉

10：00 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00

祝・祭日を除く月～金曜日、ただし事前にコレガホームページで案内する指定休業日は除きます。

※ 本商品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様のため、日本語版 OS のみ動作を保証しています。そのため、日本語版 OS 以外のお問い合わせはお受けできませんのでご了承ください。

※ サポートセンタへのお問い合わせは日本語に限らせていただきます。

This product is supported only in Japanese.

※ 電話が混み合っている場合は、メールサポートをご利用ください。

記載の内容は予告無く変更する場合があります。
最新情報はコレガホームページ（**http://corega.jp/**）をご覧ください。